

当院で行う無痛分娩について

陣痛の痛みは、主に子宮の収縮や膣・会陰部が広がる刺激が痛みとして感じられることによりおこると言われております。痛みの刺激は背中にある神経を通して脳に伝わります。無痛分娩とは一般的には麻酔を使用して痛みの刺激をブロックする分娩のことを言います。硬膜外麻酔や脊椎硬膜外麻酔の併用、また点滴による麻酔を使用する方法等があります。使用方法も持続的に使用する方法和必要時のみ使用する方法があります。

無痛分娩の最大のメリットは痛みが和らぐことです。それに伴い母体へのストレスが減り、疲労が少なく早期の回復が見込めます。特に妊娠高血圧症候群など母体合併症がある場合母体への負担が軽くなり、赤ちゃんへも通常より十分な酸素が供給できる可能性があります。

無痛分娩のデメリットとして、分娩時間が長くなる可能性があります。陣痛の力が弱まることが多いため、通常陣痛が起きているときに分泌されるオキシトシンという子宮を収縮させるホルモンを投与して陣痛促進も行います。無痛分娩では鉗子分娩や吸引分娩となる可能性が高くなると言われておりますが、帝王切開になる確率については変わらないという報告が出ています。

当院では副作用や安全性を考慮し、硬膜外麻酔を単独で使用して分娩の痛みを和らげます。局所麻酔薬を必要な時だけ使用することにより分娩の進行をなるべく妨げず、薬剤の使用量を減らすことにより副作用を減らします。ただし陣痛の痛みに関してはかなり和らぐ可能性がありますが、完全になくなるわけではありません。

無痛分娩を行うためには、分娩が進行する前に硬膜外麻酔のカテーテルを入れておく必要があります。硬膜外麻酔を行うためには適切な体位をとる必要があるため、陣痛がかなり強くなってからでは無痛分娩を行えない可能性があります。また硬膜外麻酔による合併症が生じる可能性もありますし、カテーテルの入り具合によっては期待したほどの鎮痛効果が得られない場合もあります。

費用について

硬膜外麻酔・陣痛促進に加えてどのような処置が加わるかにより変わりますが、通常分娩費用に加えて5～10万円余分にかかります。

麻酔の詳細な方法や合併症等について、

別紙「**脊椎麻酔・硬膜外麻酔について**」をご覧ください。

長野産婦人科